

2014 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [札幌市立札幌大通高等学校] 担当教諭名 [杉山 譲司・佐藤 千恵子] (異文化理解講座 46名)
 交流相手国 [タイ]
 海外学校名 [Plearnpasa Language School] 担当教諭名 [Somrat Bureerat]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	英語科・異文化理解	「アート・マイル・プロジェクト」	24

■作品について教えてください。

題 (テーマ)	Understanding Stereotypes / Create Child Equality
絵に込めたメッセージ	<p>人種民族に対するステレオタイプ、偏見をいかに克服するかというテーマで、歴史的、文化背景的に対立等のあった国・地域の組み合わせで人物と食べ物を並置した。例えば、ベトナムの春巻きを食べるアメリカ人、日本のおにぎりを食べる中国人。ステレオタイプからすると問題を抱えている国同士かも知れないが、食はお互いに受け入れられているであろう。食を「偏見を越える」ものの象徴とした。</p> <p>タイの仲間たちの学習テーマは異なるものであったが、絵としては私たちのテーマを引き継いで描いてくれた。そのように交流すること自体が、自分たちのなかの平等への意識を高めてくれるというメッセージを絵に書き込んでくれたのではないかと受けとめた。</p>



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
過去2年間の課題として異文化理解という科目の中で学んだことを、どう交流に生かすかということがあった。今年はお互いに、それぞれの学校で学んでいることを共有するという話し合いが最初の段階でできたため、それぞれの学習の内容を紹介し合い、深め合うことができ、例年以上に意義深い交流となった。	高校生らしい学習テーマはときとして抽象的なものとなり、絵に描く際に相当の苦勞をした。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手国や世界に対しての意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
タイの生徒たちが聾学校や少数民族の生徒と交流している様子を知り、自分たちの周りにもいるはずのマイノリティの人々に対する意識が顕在化するきっかけとなった。	相手校の担当教諭の意識の高さから、今回、学習テーマを教科の普段の学びと結びつけたり、ユネスコスクール世界大会のスカイプ会議に臨むことができたが、生徒たちがそのような高いハードルを次々と越えてくれた。生徒の努力を信頼することの大切さを教えていただいた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
事前学習 自己紹介 自文化紹介	8月 9月 12月 ～ 2月	・事前学習＝タイの基礎情報調べ ・ビデオレターを利用したパートナー校との自己紹介交流 ・お気に入りの日本語紹介、雪祭り紹介(ビデオレター)	・タイの生徒たちが日本のことをよく知っていることに感心し、自分たちもタイのことをよく知りたいという思いになった。 ・自分たちの文化についても伝えたいという思いが強くなった。	異文化理解
テーマ学習	10月 11月	・JICAの講師による出前講座 ・ユネスコスクール世界大会の準備、及び本番のスカイプ会議 ・フォーラムを通じて、それぞれが学習したことについての紹介、説明	・スカイプ会議では、どのようなことを相手国の学びから感じ取ったかを中心に交流することができた。会議に参加できなかった生徒もその様子をビデオで見ることができた。 ・フォーラムで自分たちが学んできたこと(ステレオタイプについて)を相手に伝える作業を通して、より学びが深まった。また、タイの生徒たちの聾学校、少数民族の学校の生徒たちへのインタビュー活動がとても深い研究で、少数者の意識へ思いを馳せたり、自分たちが意識していなかったことに気づかされた。	異文化理解
構図決定	11月	Understanding Stereotypes / Create Child Equality をどう図案かするか、アート作品による意見広告を扱ったHPなど参考に考察。	抽象的な概念をいかに具体的な絵にするか大変苦労していた。	異文化理解
壁画制作	12月	リーダーにより線画をしたあと、例年通り午前-午後-夜間とリレーで絵塗りをした。	人物、食べ物など描きやすい色でスムーズに進んだ。背景の遠近を出すのに苦労していた。	異文化理解
鑑賞・振り返り	2月 3月	共同制作した絵の鑑賞とプロジェクトの全体の振り返り。	プレゼンテーション大会のポスターセッションで生徒の前での報告ができ、改めて自分たちの学んだことの意義を感じていた。	異文化理解

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入 (A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え (5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	A	5	相手へ伝えたいという思いからより深く調べた。また相手校の取り組みから上記の通り大事な点に気づかされた。
異文化の理解	A	5	民族と食の組み合わせを考える際の調べ学習を通じて。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	A	4	日本のことばを教える、雪祭り紹介などのビデオレター作りを通じて。
情報活用能力 (情報収集・発信)	B	4	これまで以上に多くのビデオレターをやりとりできた。
人間関係をつくる (学級内・交流相手)	B	5	スカイプ会議での交流内容をリーダーチームで考えていった際の様子。
協働する力 (役割分担・協力)	A	5	ビデオレター作り、各講座での絵塗りのリレーなど。
学習を追究する意欲	B	5	異文化理解での学習内容(ステレオタイプ)をテーマとしたこと。
表現力 (伝えたいことを絵で表す)	B	4	抽象的な内容にかかわらず、よく具体化していった点。
作品を鑑賞する力	B	4	プレゼンテーション大会での報告で披露する過程で。